

西尾鉢物出荷組合 第53回日本農業賞 集団組織の部 大賞受賞を 愛知県の大村知事へ報告します！

第53回日本農業賞 集団組織の部で大賞を受賞した
西尾鉢物出荷組合(犬塚和義組合長)が
6月26日、大村秀章愛知県知事へ受賞報告を行います。

同賞はNHK、JA全中、JA都道府県中央会が主催し、経営や技術の改善に意欲的に取り組み、地域社会の発展に資するとともに食や農の担い手として先進的な取り組みをしている農業経営者・集団組織を表彰しています。※大賞の受賞は2024年1月29日発表

■受賞報告会■

【日時】

6月26日(水) 17時～

【場所】

愛知県庁 愛知県公館

【出席者】

西尾鉢物出荷組合 組合長 犬塚 和義

JA西三河 組合長 齋藤種治

あぐりセンター野々宮センター長 鋤柄浩太郎

あぐりセンター野々宮係長 加藤陽介



▲西尾鉢物出荷組合の皆さん

写真をお送りすることもできますので、ご希望の場合はお気軽にお問い合わせください。

■当産地が評価された点(審査講評より抜粋)

- ・全国44の主要な花き市場に供給するほか、130品目を香港などに輸出。「西尾はなんでも揃う産地」「1ケースからのニーズにも的確に答える」を標ぼうし、全1,980品種 約6,900アイテムのラインナップで年間390万鉢を出荷している。
- ・運送会社間の運賃計算の格差を、集荷・輸送を行う運送会社の一元化により解決するとともに、出荷規則を明確化することで双方のメリットを創出している。(詳しくは別紙のとおり)



【お問い合わせ・ご連絡先】

JA西三河(西三河農業協同組合)

〒445-0073 愛知県西尾市寄住町下田15

企画室企画課 広報担当:尾形

TEL: 0563-56-5214 担当者携帯: 070-1414-6818

HP: <https://www.ja-nishimikawa.or.jp/>

Eメール: kikaku@ja-nishimikawa.com



《JA西三河ホームページ》
その他のニュースリリースは
こちらから確認いただけます

※ このニュースリリースは、西尾市の記者室在籍報道機関およびJAグループ愛知記者会あてに発出しています。
また、同内容をJA西三河ホームページの「報道機関向け資料(ニュースリリース)」ページにも掲載しています。



西尾鉢物出荷組合

< 集団組織の部・大賞 >

組織名： 西尾鉢物出荷組合

代表者： 組合長 犬塚 和義

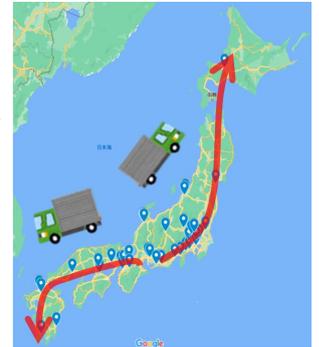
住所： 〒444-0426 愛知県西尾市野々宮町尾竹2-2

加入JA： JA西三河

主要作目： 鉢物(和物、洋ラン、観葉、鉢花)

< 当産地に対する審査員からの評価 >

○ 日本のほぼ真ん中に位置し、家族経営を中心とした80戸からなる鉢物出荷組合。全国最大規模の愛知豊明花き地方卸売市場を始め、北は北海道、南は鹿児島県の全国44の主要な花き市場に供給するほか、130品目を香港などに輸出している。「西尾はなんでも揃う産地」「1ケースからのニーズにも的確に答える」を標ぼうし、全1,980品種 約6,900アイテムのラインナップで、年間390万鉢を出荷。ユニークな出荷システムにより、物流の2024年問題の解決を図るとともに、消費者・運送会社・生産者のメリットと合わせ、移り変わっていくトレンドを的確にとらえながら、希少品種を含め、伝統商材を保持することにつながっている。



北海道から鹿児島県の全国各地の市場と取引

○ 運送会社間の運賃計算の格差を、集荷・輸送を行う運送会社の一元化により解決するとともに、出荷規則を明確化することで双方のメリットを創出した。生産者は前日までに出荷量・輸送先を予約し、集出荷場への持ち込み時間を厳守することにより、運送会社は前もって運行計画を立てることができる。このため、個選の農家に比べ、平均で20%安い運賃と、組合員の出荷物をたとえ1ケースの注文でも全国の提携市場に届ける仕組みを実現した。

○ 一元化の効果として、①全国各地の買参人との商談の際、輸送の問題を気にせずに契約を締結できる、②小ロットの注文に対しても対応できるため、「1ケースからのニーズにも的確に答える」との評判がある、③流行から外れた品目でも生産し続けられるため「西尾はなんでも揃う産地」という評判を得られながら、伝統の品目を後世に伝えることにもつながっている。

○ 和物、洋ラン、観葉、鉢花の4つの部会が1つにまとまって組織活動を行うとともに、若手を中心とする駄鉢会が部会の垣根を越えて自由な活動を行っている。各部会員は2月の総会、7月の研修会に欠かさず出席し、情報収集と研鑽に励むだけでなく、そこに全国の市場関係者を招き、情報交流の場をつくりながらトレンドを掴んで経営に反映させている。この出荷組織組合は、個々の力が強い農業者たちのプラットフォームとしての役割を果たしている。

○ 課題に直面するたびに委員会を立ち上げ、役員を中心に若手や女性も参画し、協議している。委員会の活動を通じて、輸送台車の導入、ホームページ・SNSの開設・活用による販売強化、カタログ作成、運送会社一元化、市場・消費者情報の収集、バーコード付きハーフ台車物流の実証などの成果を上げてきた。

○ 先駆的な取り組みとして「トップライン」を運営している。SNS「LINE」のグループ機能で生産者と買参人が直接やり取りする仕組みで、組合員が商材写真とともに、商品の数量・単価などをグループに投稿して買参人との取引を成立させている。

○ これらの仕組みは個々の組合員の目標や方向性を生かしつつ、組合全体の利益も追及しているものであり、さらには若い世代の挑戦を可能にしている巧みなシステムである。

——— 以上の点が高く評価され、大賞に決定しました。